

令和4年度 中野区立中野第一小学校 学校経営計画

学校教育目標	心身ともに健康で知性と感性に富み、自分も人も大切にす豊かな人間性をもち、時代と社会の変化に主体的に対応してたくましく生き、社会に貢献できる児童を地域・保護者と連携して育てる。		
	考える子 思いやりのある子 元気な子		
目指す子ども (幼児・児童・生徒)像	1 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度を身に付け実践する子 2 基礎的・基本的な学力を確実に身に付け、習得した知識・技能を活用できる子 3 運動に親しむとともに、健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し、健康で活力ある生活を営む子	目指す学校 (教師像を含む)	わたしっていいね! I'm OK! 児童に 保護者に 地域に 教職員に 喜びを生み出す学校 あなたもいいね! You are OK! 子供を中心として学校・家庭・地域がつながり それぞれのもてる力を発揮し、 地域そのものが一つの学校として教育に当たり、 愛され誇りにされ喜びを生み出す学校をつくり、 児童のよりよい成長を促す適切な支援を充実させた教育を実現する。
教育目標を達成するための基本方針	(1) 豊かな人間性の育成 人権尊重の精神を基盤とし、全教育活動を通して生命や人権等を尊重する態度や規範意識を育むとともに自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める。学年や異学年での交流、地域の人材を活用した教育活動や交流活動等を通して、道徳性や豊かな人間性、人間関係形成力を培うとともに、地域で学ぶ児童への一貫した成長支援・育成に取り組む。また、保護者や関係機関、スクールカウンセラー等との連携を密にしながら児童が安心して過ごせる環境を整備するとともに、学校いじめ防止基本方針に則り、全教職員で年間を通して継続的にいじめ未然防止等に全力で取り組む。 (2) 学力の向上 児童の実態に基づいて指導方法を工夫改善した授業と評価規準・評価計画による適正な評価・評定を実施し、個に応じた指導や補充学習、少人数・習熟度別指導等を通して基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、言語活動や課題解決学習、体験的な学習の一層の充実により思考力・判断力・表現力等を育成し活用する力を身に付けさせる。また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進するとともに、学びを人生や社会に生かそうとする姿勢や態度を身に付け、持続可能な社会の担い手としての資質や能力を育成する。また、外国語によるコミュニケーション能力の向上を目指すとともに多文化共生社会を生きる国際感覚を育む。 (3) 体力の向上と健康の保持増進 年間を通して体育の授業改善や体を動かす運動や運動遊びに取り組み、日常的に運動に親しむ資質を育成して体力・運動能力の向上を図る。食育や防災教育の推進、交通・安全指導の徹底により必要な知識等を習得させ、心と体の健康づくりに主体的に取り組む態度や健康で活力ある生活を営む実践力を育てる。また、特別支援教育に関する研鑽を深めるとともに校内支援委員会の活動を一層活性化させ、関係機関等との連携を取りながら、個に応じた指導ときめ細やかな支援による児童の心身の健やかな成長を図る。 (4) 保護者・地域との連携・協働 土曜授業公開の実施、学校だよりやホームページ等とおして、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を保護者や地域と共有・連携し、社会に開かれた教育課程の確立と地域社会と共に教育を推進する学校の構築を推進する。また、保幼小中の連携を生かして生きる力を更に伸ばし育てていく。		

A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
1	【知(確かな学力)】 保幼との円滑な接続と小中9年間の学習の系統性を踏まえ、小学校における基礎的・基本的な学力の定着と知識・技能を活用する力を身に付ける。 【学習方法の改革】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。学習したことがよくわかり楽しく学習している児童を90%以上とする。
2	【徳(豊かな人間性)】 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度、実践する力を身に付ける。 【自己評価を育て高める】 様々な機会に積極的、肯定的に対応する能力の土台となる高い自己評価をもつ。 【人権尊重の精神を育てる】 生命や人権等を尊重する態度や規範意識を身に付ける。	自信のあるところとないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童を80%以上とする。 自分を大切にす児童を90%以上、友達を大切にす児童を95%以上とする。
3	【体(健康・体力)】 運動に親しむとともに健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し、健康で活力ある生活を営む力を身に付ける。 【身体(健康)】 運動に親しむ資質を育成し体力・運動能力を向上させる。 【心の健康】 心身の関係について理解し、楽しく明るい生活を営む態度を身に付ける。 【安全な生活】 安全について理解し、自ら安全に行動する力を身に付ける。	体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい児童を90%以上とする。 健康に気を付けて、元気に生活している児童を95%以上とする。 安全に気を付けて生活している児童を95%以上、困ったことや悩みがあったらだれかに話したり相談したりできる児童を80%以上とする。
4	【学校における働き方改革】 教職員の心身の健康保持を図り、心身共に充実して働き続けられる働き方を実現する。 教職員の働き方に係る意識改革を推進し、働き方の改善に具体的に取組む。	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。
5	【保幼小中連携】 保育園・幼稚園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続を図り、連携を生かして生きる力(豊かな心・学力・体力)を更に伸ばし育てる。 教科指導や生活指導等において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導の工夫を行い、一貫性のある継続的な指導を行う。	教科指導において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導を構築する。

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価				
			評語	取組に関する指標(可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組	成果	考察(コメント)	改善策	
							中間	中間			
I 知 確 かな 学 力	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。学習したことがよくわかり楽しく学習している児童を90%以上とする。	一人一台タブレットと学習アプリMonoxerの活用による授業改善・授業改革の研究に取り組む。	A	他分科会とも協力し学校全体で取組んだ	A	児童の肯定的評価90%以上	5	B	B	全校88.0% 昨年度中間86.1%より微増。詳細を見ると、中学年・高学年は指標が約4%上がっているが、低学年で約3%下がっている。授業改善・授業改革への取組により、児童に学び方の意識が育ってきていると考える。 ●アサガオの成長の様子をiPadに撮影し、観察することができた。国語の教科書の二次元バーコードを写して、資料を見たり、音読を家庭で聞いて読み方のお手本にしたりするなどの活用ができた。●児童の活用力は上がっている。協働的な学びをする時にも活用できている。●朝学習の時間に学習アプリで意欲的に取り組んでいる。漢字テスト前には、活用できている。	引き続き授業改善・授業改革への取組(校内研究)を推進する。 Monoxerの活用について、十分に理解していない児童に適切に指導・支援する。 形成的評価による児童への成果のフィードバック、良さの気付きを一層推進していく。
			B	年間をとおして学年で取組んだ		児童の肯定的評価85%以上	6				
			C	学年で協力・連携して取組んだ		児童の肯定的評価80%以上	3				
			D	十分な取組ができなかった		児童の肯定的評価75%以上	0				
		学習におけるICT機器・学習アプリの活用、学習状況の把握と適切な指導・支援を行う。	A	学年で適切な指導・支援を共有した	C	児童の肯定的評価80%以上	6	B			
			B	学習アプリを効果的に活用した		児童の肯定的評価75%以上	4				
			C	ICT機器を効果的に活用した		児童の肯定的評価75%以上	6				
			D	十分な取組ができなかった		児童の肯定的評価75%以上	0				
2 徳	自信のあるところとないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童を80%以上とする。	良さに【気付く・見付ける・感じる】そして【伝える・認める・褒める】取組を年間をとおして、児童の自己評価を育て高める。	A	児童とともに日常的に取組んだ	A	児童の肯定的評価80%以上	5	B	B	全校80.5%、6年生67.0% 昨年度からの同学年での経過を見ると、低・中学年で指標が下がっている。 保護者評価では、高学年の指標が昨年度の状況より上がっている。 ●朝の会で良いところをできるだけ取り上げようという声掛けをした。褒められた子は自己肯定感が上がり、前向きな姿勢が見られるようになった。●自己肯定感の低い児童が多いクラスや学年に対して、授業内では発言や演奏の様子から褒めるなどの声かけをしたり、演奏が苦手な児童について段階に応じた支援をすることができた。	高学年の高評価は、学年や学級での様子を便りでも知らせる頻度が高く、保護者の理解を得られているとともに児童へ良さのフィードバックに取り組んでいるためと思われる。他学年でも保護者への学級から情報発信を推進する。
			B	日常的に意識して取組んだ		児童の肯定的評価80%以上	11				
			C	学年で取組の仕方を共有した		児童の肯定的評価75%以上	0				
			D	十分な取組ができなかった		児童の肯定的評価70%以上	0				
		発達段階の理解、自己評価についての啓蒙、自己評価を高める具体的な事例など、学校だよりや学年・学級だより、ホームページなどあらゆる手段を使って家庭・地域と共有する。	A	学校だより・ホームページを活用して取組んだ	C	児童の肯定的評価75%以上	0	C			
			B	学級だよりや面談を活用して取組んだ		児童の肯定的評価70%以上	8				
			C	学年だよりを活用して取組んだ		児童の肯定的評価70%以上	5				
			D	十分な取組ができなかった		児童の肯定的評価70%以上	8				
豊 か な 人 間 性	自分を大切にしている児童を90%以上、友達を大切にしている児童を95%以上とする。	互いを知り尊重し合うためのコミュニケーションや対話のスキルや能力を向上させる。	A	日常の授業や活動に取り入れて実施した	A	自分90%以上、友達95%以上	10	B	A	自分を大切にしている90.0% 友達を大切にしている96.5% 自分を大切にしている児童が最終目標値に達している。昨年度と比較すると、低学年で両方とも指標が下がっている。 ●授業ではさまざまなペアやグループ活動を取り入れて、互いを認め合い、助け合えるような機会を設定した。その様子をよく観察し、適切に支援するよう努めた。●授業の中に対話の時間をできるだけ取り入れ、トレーニングを積んだ。●ペア学習で交流した時には、友達の意見に対してお返し言葉(良かったところ)を伝え合うようにさせている。●授業以外で児童に対してすすんでコミュニケーションをはかり、児童の良さを見つけ、児童理解に努めた。●初めてのいじめ防止のシンボルマーク作りはDVD視聴の後に作ったので、とても前向きに取り組めた。	低学年において、人権尊重の教育を推進し、特に自他を大切にすることに関する取組を重点として取り組む。 支援が必要な児童に対し、指導を重ねるとともに、生活のルール・規律を守ることを、その良さや意義を含めて丁寧に継続的に指導する。
			B	SST等の取組を年3回以上行った		自分85%以上、友達90%以上	2				
			C	SST等の取組を行った		自分85%以上、友達90%以上	3				
			D	十分な取組ができなかった		自分85%以上、友達90%以上	1				
		いじめ防止標語・ポスター作成、あいさつ運動などの児童活動を行い、いじめ防止を常に児童に意識付ける。	A	他教員と協同して100%対応した。常にいじめ防止を意識して取組んだ	B	自分80%以上、友達90%以上	10	A			
			B	アンケートや発生事案に100%対応した		自分80%以上、友達85%以上	4				
			C	アンケートや発生事案に未対応があった		自分80%以上、友達85%以上	0				
			D	計画の未実施があった		自分80%以上、友達85%以上	0				
各児童の道徳振り返りシート等を用いて学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉え、適切な評価と指導を重ねることにより児童の自尊感情を高める。	A	必要に応じて家庭と連携して取組んだ	C	自分75%以上、友達85%以上	4	B					
	B	日常的に個に応じた指導を行った		自分75%未満、友達85%未満	8						
	C	振り返りを活用して取組んだ		自分75%未満、友達85%未満	1						
	D	十分な取組ができなかった		自分75%未満、友達85%未満	0						

3 体 健 康 ・ 体 力	体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい児童を90%以上とする。	休み時間の外遊びの奨励と体育館の開放、体力向上月間(6月,10月,2月)の実施。	A	年間をとおして動く楽しさを味わわせる工夫をした	A	児童の肯定的評価90%以上かつ「とても」が75%以上	3	B	<p>全校91.3%、「とても」72.1% 高学年の指標89.0%は、過去最高のものとなっている。 昨年度と比較し、低学年の指標が下がっている。 ●振り返りカードを活用し、できるようになったことや頑張りたいことを自分なりに書くことができるようになってきている。●鉄棒、マット運動、固定遊具の遊びなどのカードを使い、目当てをもって運動できた。最近の子供たちは身体を動かす機会が著しく減っていて、外遊びを好まない児童もいて、全般に太り気味ではないかと感じている。●学習カードを活用し、児童による自己評価を行えるようにした。</p>	特に、低学年における体育学習の改善と運動への接し方への工夫を行っていく。 中・高学年は、教科交換による体育学習担任制を生かし、より一層の改善を図る。 本校教科体育部教員、校長が指導・助言・支援する。	
			B	休み時間の取組を行った	A	児童の肯定的評価90%以上	9				
			C	体力向上月間に重点的に指導した	B	児童の肯定的評価90%以上	1				
			D	十分な取組ができなかった	B	児童の肯定的評価90%以上	0				
		各種の動きを補完・補強する運動遊びの提示と取組カードを活用した取組(特に投力向上)	A	個に応じた有効な支援を行った	C	児童の肯定的評価85%以上	2				C
			B	取組カードを使って継続指導した	C	児童の肯定的評価85%以上	6				
			C	運動を提示した	D	児童の肯定的評価80%以上	3				
			D	十分な取組ができなかった	D	児童の肯定的評価80%以上	2				
	健康に気を付けて、元気に生活している児童を95%以上とする。	心と体の関係についての体験的学習の充実(保健・心と体)	A	年間をとおして体験学習を適宜行った	A	児童の肯定的評価95%以上	0	C			
			B	心と体の関係について指導した	A	児童の肯定的評価95%以上	8				
			C	ねらいに沿った体ほぐしの運動を実施した	B	児童の肯定的評価90%以上	5				
			D	体験的学習ができなかった	B	児童の肯定的評価90%以上	1				
スクールカウンセラー・心の教室相談員との連携、生活指導の情報共有と個に応じた統一した支援を行う。		A	全体で統一した支援となるよう取組んだ	C	児童の肯定的評価85%以上	2	B				
		B	SC等とも共有して取組んだ	C	児童の肯定的評価85%以上	11					
		C	学年・生活指導で共有して取組んだ	D	児童の肯定的評価80%以上	4					
		D	適切に情報共有できなかった	D	児童の肯定的評価80%以上	0					
安全に気を付けて生活している児童を95%以上、困ったことや悩みがあったらだれかに話したり相談したりできる児童を80以上とする。	交通安全教室(4月)、セーフティ教室(12月)の実施と学年に応じた指導。	A	年間をとおして適切に指導した	A	安全に気を付けて95%以上相談できる80%以上	5	B	<p>安全に気を付けている94.7% 相談できる72.6% 相談について、低72.6%、中70.0%、高76.1% 安全を守る教育活動について、保護者評価は91.8%で過去最高となっている。 情報モラルに関して、不適切なやりとりについて、学校内という閉ざされた環境であることを指導の機会として大切に全教職員で指導にあたっている。 ●きまりを守って生活ができるように、めあての振り返りの時間をつくっている。●学校だよりやホームページでの発信に加え、土曜公開授業に体験学習を充てることができた。</p>	SOSの出し方に関する教育は、長期休業日前の重点指導に加え、月1回程度の指導を行う。 情報モラルについては引き続き指導するとともに、家庭の協力が得られるよう情報の発信を工夫する。 防災体験学習について、区防災課との連携を強化したいと考える。また、他団体との連携も模索する。		
		B	学年で共有化した指導を行った			8					
		C	学校安全計画に基づく指導を実施した			1					
		D	学校安全計画に基づく指導ができなかった			0					
	SOSの出し方に関する教育を全学年で発達段階に応じて系統的に実施(特に長期休業日前)	A	年間をとおして重ねて指導した	A'	安全に気を付けて95%以上相談できる75%以上	5				B	
		B	重点時期に確実に指導した	B	安全に気を付けて90%以上相談できる75%以上	8					
		C	具体的なSOSの出し方を指導した	B	安全に気を付けて90%以上相談できる70%以上	0					
		D	適切に指導できなかった	B'	安全に気を付けて90%以上相談できる70%以上	0					
	情報モラルについて外部機関を活用するなど全学年で生活に生きる指導を実施(7月)	A	年間をとおして適切に指導した	C	安全に気を付けて90%以上相談できる65%以上	12				B	
		B	学年で共有化した指導を行った			1					
		C	外部機関や資料を使って指導した			0					
		D	有効な指導ができなかった			0					
	系統的な防災体験学習の実施と家庭への啓蒙による日常的な行動の習得(9月の土曜授業公開日に実施)	A	年間をとおして適切に指導した	C'	安全に気を付けて85%以上相談できる65%以上	3				B	
		B	学習内容を家庭と共有した			6					
		C	体験学習で効果的に指導できた			4					
		D	有効な指導ができなかった			0					
4 働 き 方	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。	庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図り、各自が自己の月ごとの勤務時間を把握し、次月の計画・改善に生かす。	A	月途中で総計を確認しながら勤務した	A	年360時間以下の教職員が90%	1	C	<p>10/21時点360h以上 全7人/34人(残業のみ2人/34人) ●定時退勤に努めた。●総計を確認してはいないが、気持ちの上では、できるだけ遅くまで残らないように意識している。●業務を効率的に遂行するために、自分自身の仕事の仕方の改善や、分掌内で役割を明確にして業務の効率化を図る必要がある。</p>	前月の状況確認を推進する。 副校長による助言を行う。副校長の退庁時刻を早くする。	
			B	前月の結果を次月に生かした	B	年360時間以下の教職員が70%	4				
			C	早く退勤する日を決めて勤務した	C	年360時間以下の教職員が50%	10				
			D	十分な取組ができなかった	D	年360時間以下の教職員が30%	3				
5 連 携	教科指導において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導を構築する。	連携小学校間で教科の1単位時間での学習の進め方やノート指導等について改善し共有、実践することによって児童が中学での学習にスムーズに取り組めるようにする。	A	小学2校で協議検討した	A	複数教科で統一したものを作成できた	1	C	<p>全くできていない。 ●小中連携協議会と英語教育研修会では交流して情報交換をしたが、それ以外の交流がない。●小中連携教育協議会で、多少は小小間の情報交換ができたがそれ以外には行っていない。●小、中学校間において、協議検討が不十分であり、各校の実態を踏まえて検討していく必要がある。</p>	まずは、二中の実態把握と連携の重要性を認識させる。中野本郷小は、学力向上、授業改善の観点から小中連携に向かわせる。	
			B	小学2校で取組む体制を確立した	B	一教科で統一したものを作成できた	0				
			C	自校で改善に向けた具体を検討した	C	改善に向けて共通理解ができた	10				
			D	十分な取組ができなかった	D	十分な取組とならなかった	5				